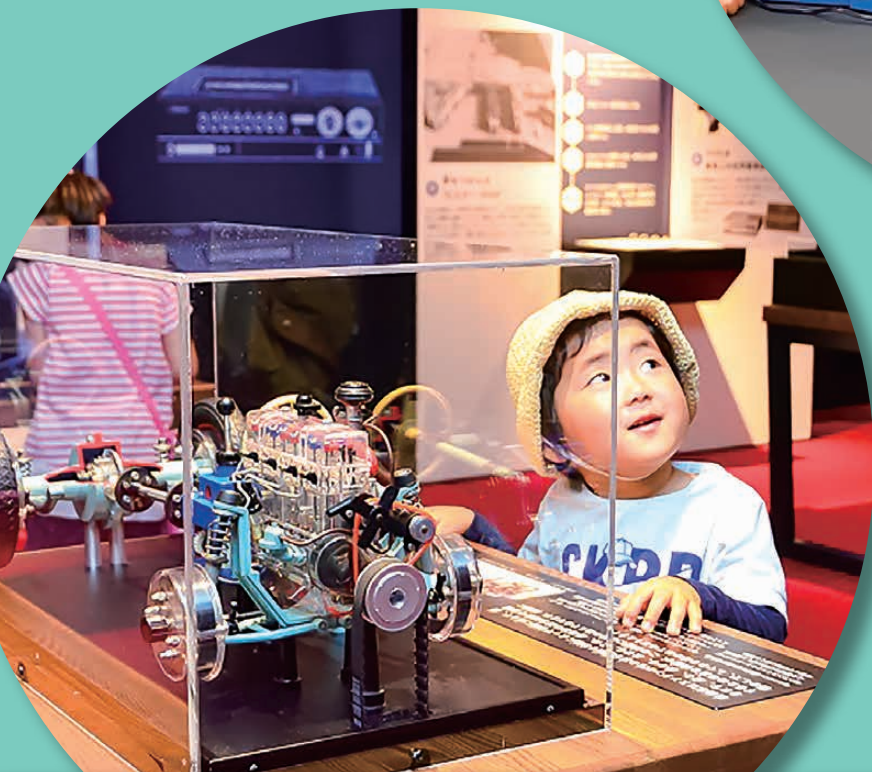


# 教育と文化

No.129

令和4年7月



## Contents

- |                       |                            |
|-----------------------|----------------------------|
| 2 巻頭言                 | 10 令和3年度最優秀論文              |
| 4 三河の文化を訪ねて           | 12 刊行物の活用紹介                |
| 6 <b>特集</b> 研究助成団体の紹介 | 13 令和4年度学校教育ボランティア助成グループ一覧 |
| 8 教育随想                | 14 令和4年度研究発表校一覧            |
| 9 教室の窓辺               | 16 文振だより                   |





## 巻頭言

# デジタル化の進展と アナログとのバランス

公益財団法人愛知教育文化振興会理事長 保科克之

このたび、柵木智幸先生の後を受けて公益財団法人愛知教育文化振興会の理事長に就任しました。長い歴史と輝かしい伝統をもつ本法人理事長の重責をひしひしと感じ、たいへん身の引き締まる思いです。もとより微力ではありますが、役員の皆様、事務局の皆様の御指導と御支援を得て、誠意と情熱を胸に職務に邁進してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

愛知教育文化振興会は、設立から65年、公益財団法人となつて11年目を迎えます。この間、不易と流行のバランスをとり、「はじめに子供ありき」の地道な教育実践を追求する三河教育の本質を基盤に、独自教材の刊行を柱とした他地域に類を見ない活動を先輩諸氏が重ねてこられました。令和4年度も三河教育研究会が中心となり、小学校版21、中学校版15の編集委員会を立ち上げ、500人に迫る三河各地の教師に編集委員として教材づくりを進めてもらいます。

### 「現場の声がいつそう届く刊行物に」

特にここ数年は、校内ICT環境の充実とそれに伴う学校現場からの要請を受け、QRコードの掲載箇所を増やし、リンク先として補充問題や解説および参考動画等の充実を図ってきました。また、多くの刊行物で教師用版のPDF化を進め、4月1日より配付することができました。目次から当該ページにジャンプできること、教室で大画面に映し出せること、教師用を保存しておけばいつでも教材研究ができることなど、多くのメリッ

「個別最適な学び」は、一人一人の子供が知識・技能を習得して確かな資質・能力を身に付けていくとともに、それぞれの子供に応じた課題の解決に向け、本気で取り組む探究を通して、実際の社会でも活用できる資質・能力が育成されていくことを期待しています。

知識・技能の習得は1人1台のタブレット端末の普及等により、これまで以上に効率的に進むと思われまふ。申し上げるまでもありませんが、学校という場では、ただ機械に向かって黙々とキーを打つことに終始するのではなく、級友と力を合わせて習得に励む協働的な姿勢も重視したいところです。目指すべきは、学習の孤立化ではなく個性化です。

探究段階にあつても、情報の取得や空間を超えたオンライン上の交流は手軽にできるようになってきましたが、やはり、すぐ目の前にいる級友との討論、練り上げといったリアルな協働は忘れたいくありません。デジタルとアナログの有機的な融合をめざした、本校での実践を道半ばではありますが、紹介させていただきます。

### 「学校間交流を活かして」

市内中心部にある本校は、従前から中山間地域に位置する市内小規模小学校と教育交流を続けています。コロナ禍以前は、実際に児童が行き来をしていましたが、それもかなわず昨年度からオンライン交流に切り替えました。交流学年は4年生とし、内容は手探りでスタートする中、環境の違う両校の児童が考える理想の豊田市像はどのよう

トがありますので、ぜひ活用していただきたいと思います。今後は、デジタル採点支援システムなどを視野に、さらなる進化を目指しています。

本法人刊行物は、三河の教師による三河の子供たちのためのものであり、編集委員の皆さんの持ち寄る情報や必要感が活かされるものです。現場の声が届くことは、本法人刊行物の大きな特長といえます。そのため、モニター制度や各種アンケート調査にも力を入れています。

昨年度は、三河教育研究会が全編集委員に改めて改善点を問い直しています。また、新規開設となった三河小中学校長会のホームページを通じて、三河の全校長からICT化に関する校内状況と刊行物のICT化に関する声を聞きました。さらに、中学校版刊行物の回覧後に各中学校長から刊行物に関する意見や要望も寄せてもらいました。実際に刊行物を手にして、「良い」「改善された」「改善を望む」といった約八百件の貴重な意見や感想がありました。そこで、各編集委員会にも情報を提供し、一つでも多くの声を編集に反映するように努めました。本年度は、回覧の手法にもデジタル化を取り入れ、より効率的な周知活動を進めていけたらと考えています。

### 「デジタルとアナログのバランス」

さて、令和3年1月に、中央教育審議会から『令和の日本型学校教育』の構築を目指して、すべての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現（答申）」が出されました。



デジタル空間で多様な他者と出会い、  
リアル空間で学びを練り合う場面



練り直しの跡が残る、手書きの作品



科学に関する驚きと発見がいっぱい

# 夢と学びの科学体験館

刈谷市立刈谷東中学校 教頭 土居 哲也

2015年5月、刈谷市中央児童館を改修し、「ミクロの世界から宇宙まで、科学に関する驚きと発見がいっぱい」をテーマとした「夢と学びの科学体験館」がオープンしました。

## サイエンスステージ

入口を入ると正面に見えるサイエンスステージでは、吹き抜けの大空間を利用したダイナミックな実験ショーを行っています。

静電気や磁石の力、光や音をテーマとした実験など、毎週いろいろなテーマで行います。当館の実験ショーは、見るだけではなく、途中で子どもが参加できる場面を設定しています。参加できなかった子どもには、ショーが終わった後に体験できるコーナーもあり



サイエンスショー後の体験

ます。空気砲を使って煙の輪を飛ばしたり、液体窒素で凍らせた花をばらばらにしたりすることで、実験の内容を詳しく理解できます。

## ラボ（科学体験）

3つのラボでは、子どもたちが気軽に参加できる科学実験講座がたくさん用意されています。

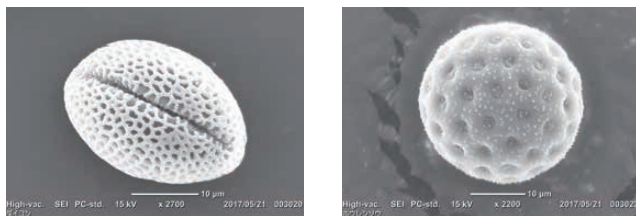
合成洗濯のりとホウ砂水を使ったスライムづくりでは、紫外線に反応して色が変わるフォトリソミックインクや暗闇で光るように蓄光顔料を入れて、作るだけではなく科学的な要素を加えています。

また、はんだごてを使って電子部品を取り付けたり、自分でエナメル線を巻いて手作りラジオを作ったり、型取り材と石膏を使って立体手形を作ったりするなど、じっくり集中して取り組む講座もあります。

さらに、ラボ1には、最大倍率6万



遠足でスライム作りを体験する様子



ダイコンの花粉

ハウレンソウの花粉

## 簡単工作コーナー

紙コップや紙皿、割り箸を使った無料工作では、はさみやのりを使ったり、糸結びをしたりする工程を入れ、手や指先を使うことを大切にしています。

ふわふわビーズや丸大ビーズを使った有料工作では、色の組み合わせを考えたりオリジナルストラップを作ったり、動物や国旗を描いたりする工作を用意



したりしています。無料工作2種類、有料工作1種類を月替わりで提供しており、いつでも楽しめます。



恐竜をテーマとした展示



クライミングウォールとトリックアート



ハイブリッドプラネタリウム

簡単工作を体験することを通して、子どもたちは、想像力やものづくりへの興味を膨らませていきます。小学校、保育園や幼稚園、子ども会などの団体にも対応しています。

## 親子広場（未就学児専用スペース）

小さな子ども向けのクライミングウォールがあります。靴を脱ぎ、自分の手と足で体重を支える体験をすることで、手先や素足の感覚を大切にしています。また、ここにはトリックアートもあるので、びっくり写真を撮ることもできます。

## 刈谷ものづくり

2階には、刈谷をものづくりの街に

発展させた郷土ゆかりの5人の人物を紹介するコーナーがあります。豊田佐吉や加藤与五郎などの功績や名言を、解説パネルを使い、触れて遊べる展示物として紹介しています。

## 科学交流ギャラリー

科学について楽しく学べる展示やイベントを行うスペースです。そのときどきの話題や長期休暇中に開催する企画展に合わせて、展示内容を工夫しています。

## プラネタリウム

大人もリラックスできる広々としたシートを備えた直径15mのドーム中央には、最新型ハイブリッドプラネタリ

ウムが設置されています。高輝度LED電球により、1000万個の星を映し出し、限りなく本物に近い美しい星空を再現します。また、全周デジタル映像は、まるで宇宙の中を泳いでいるような大迫力と臨場感を生み出します。オリジナル番組をはじめ、一般向け番組、学習向け番組、0歳から観覧できるちびっこプラネタリウムなど、子どもから大人まで幅広く楽しめるプログラムが用意されています。

## おわりに

リニューアルして7年が過ぎました。ここ数年は、新型コロナウイルスの影響で人数制限や予約制のプログラムが多くなっています。一日でも早く新型コロナウイルスの感染が収束し、多くの子どもが、気軽に科学を楽しめるようになることを願っています。



〒448-0851  
刈谷市神田町1丁目39番地3  
電話：0566-24-0311





## 愛知教育大学附属岡崎中学校

### ●研究主題「躍動」

研究1年次の昨年度は、現在の社会情勢や、本校の子どもの課題をもとに、未知の状況においても、これまでの枠組みや既成の概念にとらわれず、果敢に挑戦し、社会の中心となって活躍する人間を育てたいと考え、研究主題を「躍動」と設定した。躍動するためには、どのような状況下においても、志をもって行動する必要があることから、中学校3年間で目指す子どもの姿を「自他を見つめ、志をもって歩み続ける子ども」とした。そして、目指す姿に迫るために必要となる資質・能力について考えた。秋の生活教育授業研究会は新型コロナウイルスの感染



拡大により実施できなかったが、3月9日に授業研究会を実施し、多くの先生方から授業についてのご意見をいただいたことで、今後

の研究の方向性を考える機会とすることができた。

研究2年次となる今年度は、研究の方向性を具体化する年になる。昨年度の反省をふまえ、目指す子どもの姿に迫るために必要な資質・能力や、その資質・能力を育むための手だてを模索しながら、1学期に授業実践を重ねていきたい。



## 愛知教育大学附属特別支援学校

### ●研究主題「学びを生活に生かす子どもの姿を求めて」

本校のすべての子どもたちが、授業を通して身につけたり、高めたりした資質・能力を、学校や家庭、地域社会などの生活で生かしてほしいと願い、研究を進めている。

研究2年次の昨年度は、自立活動の視点（6区分27項目）でとらえた子どもの強みとなる実態を手だてに取り入れることで、資質・能力を今まで以上に身につけたり、高めたりする子どもたちの姿を求めた。

研究3年次になる今年度は、子どもたちの生活場面を見通した学習活動を設定する。授業を通して資



質・能力を身につけるときに、子どもたちが学んだことのよさを実感できるようにすることで、学んだことを生活でも生かそうとする

のではないかと考え、実践を通して子どもたちの姿で明らかにしていきたい。

そして、一人一人を生かす授業研究の中で、子どもたち、職員がともに生き生きと学校生活を送り、ともに成長することのできる教育研究・実践を進めていきたい。



## 「はじめに子どもありき」の 理念を胸に

生活・特別支援教育研究協議会



附属岡崎小中・特別支援学校は、毎年開催する研究協議会での授業公開と分科会等により、研究の魅力を発信し、教員の授業力向上の一助となるよう、日々「はじめに子どもありき」の理念を胸に、実践を進めている。

## 愛知教育大学附属岡崎小学校

### ●研究主題「豊かに生きる」

生活教育における問題解決学習により育まれる教科・領域の学びに関する資質・能力を「教科・領域特有の資質・能力」、人間性に関する部分を「非認知的能力（やり抜く力・人とかかわる力）」と整理した。そして、生活に生きてはたらく確かな力にするためには、子ども自身が二つの資質・能力の高まりの理由や過程を客観視すること（自己の成長を自覚すること）が必要であり、そうした経験を積み重ねることが、研究主題である「豊かに生きる」姿につながると考えた。

昨年度は、単元構想の段階から、二つの資質・能



力の高まりとともに、単元のなかで互いに影響し合う場面を見通し、必要なタイミングで教師支援を講じることで子どもたちの追究を

支えてきた。そのなかで、学年や教科・領域によって非認知的能力の表れ方や高まり方が異なるのではないかと見えてきた。

研究5年次となる今年度は、発達段階や教科・教材による違い、非認知的能力との関係性について明らかにしていきたい。





## 日本の灯り

## 「和ろうそく」

磯部ろうそく店 9代目店主

磯部 亮次



## Profile

いそべ りょうじ

昭和38年7月21日生  
同業種間のネットワークを構築するなど、業界全体の未来のために尽力。  
平成19年、岡崎で作られる和ろうそくは、「三州岡崎和蠟燭」として、国から愛知県の地域資源に認められた。  
平成21年、愛知県より郷土伝統工芸品優秀技術者表彰を受け、同年、愛知ブランド企業に認定。



磯部ろうそく店  
ホームページは  
こちらから

ろうそくに火を灯します。最初は先端に小さな灯火がとまります。ゆつくりと芯に火が移り、それにあわせて灯火が少しずつ大きくなっていきます。安定した灯火は、一旦、静かに灯りますが、時間が経つにつれ表情を変化させていきます。時には規則的に、時には不規則に、「ぽつぽ」と上下に揺れ動き、ゆらゆらと揺らめくその様に、見ている人は、時と空間を忘れていきます。時間をかけて、ゆつくり灯るろうそくは次第に身を削り、小さくなっていきます。その間、ずっと様々な表情を見せながら、やがて全てが燃え尽きるとき、一瞬炎が大きくなり、すっと消えていきます。最後に一筋の煙と線香花火のようにチラチラと芯に火花が走り、見事に果てていくのです。

ろうそくは、人の人生に例えられます。おそらく、灯し始めから、消えるまでの様が、人生の長き時間を凝縮したように感じられるでしょう。

さて、現在も使われている「伝統工芸品」と言われるものは、江戸時代の生活雑貨であり、265年にわたる平和な時代に技術を磨いて作られた、とても品質の高いものです。そして、それぞれの地域の

風習・習慣や、風土、環境によって生まれ、伝えられてきた、地域の特産品でもあります。「和ろうそく」もその一つです。

「和ろうそく」が流通してきた江戸時代には、ろうそくを灯す灯火器類も発達しました。燭台を始め、灯籠、行灯も様々な工夫がなされました。中でも提灯は世界でも類のない発明でありました。17世紀のヨーロッパでは、ろうそくについては先進的でありましたが、置き型の燭台が主流でした。部屋の灯りも、暖炉の灯りが頼りであり、建物の中でも、外でも松明が燃やされておりました。その時代に日本人は提灯にろうそくを灯し、夜の街を歩いていたことは画期的な事であったと言えます。明治になり、石油ランプが生まれ、洋ロソクも生まれました。そして、すぐにガス灯から電気になり現代に移り変わってきました。2千年変わらなかった灯りの歴史は、ほんの百年でとてもない発展を遂げたことになりました。

今日、日本の住まいは畳の部屋が少なくなり、フローリングが主流になっています。オール電化等によって、子どもは火を見ることが少なくなり



ました。「価値あるものを長く大切に使う」という考えは、大量生産・大量消費の波に飲み込まれてしまいそうで、「和ろうそく」は、経済の論理では生業としていくには難しい時代となりました。しかしながら、地域の特徴を感じ、過去の営みを今に感じられる「伝統工芸（品）」が、この先も大切に残されていく環境が整う事を願っています。

最後に、ぜひ「和ろうそく」を灯して、火を見てください。そして、その火が照らす周りの様子を見てください。日本の歴史が動いた、その瞬間に灯っていた灯りであり、時代時代を照らしてきた灯りです。

## 教室の窓辺

## 命あるものとふれ合い、心を育てる

設楽町立津具小学校 教諭 西 陽子

本校は、豊かな自然あふれた設楽町津具地区にある全校児童30人に満たない小規模校です。子どもたちは、誰もがどの子も知っている温かい環境の中で学校生活を送っています。

そして、本校には、さらなる仲間たちがいます。ヤギ、ニワトリといった動物たちです。毎朝、芝生に放たれたニワトリたちが子どもたちを迎えます。休み時間には、子どもたちがヤギ小屋へ行き、ヤギのお世話をしています。

昨年度入学した1年生は、熱心にヤギのお世話をし、かわいがっていました。しかし、時にヤギが暴れたり、自分の方に角を向けてきたりすることもありました。まだ小さな1年生。次第に子どもたちは、「ヤギは怖い」という思いが大きくなり、ヤギ小屋に近づくのを憚る姿が見られるようになりしました。

そんな時に、1年生が道徳で「自然愛護」を内容項目とする授業を行いました。1年担任の「動植物に優しい心で接しようとする気持ち育てていきたい。」という願いを基に授業を組み立て、導入部分と終末部分でヤギの話題を出し、役割演技を行いました。

導入で1年担任が、今までの動物飼育の経験を尋ねると、子どもたちはヤギの世話をしたことを思い出しました。そして終末部分。再びヤギの話題へと移り、ヤギ役になった1年担任が、

「1年生の子が怖がってお世話してくれなくて悲しい。」

と子どもたちに伝えると、

「怖がってお世話できなくてごめんね。これからちゃんとお世話するよ。」

「前はごめんね。大好きだよ。」

子どもたちはこのように答えました。授業を通して、子どもたちが命あるものに優しく接しよう、ヤギともう一度向き合おうとする気持ちが芽生えるよいきっかけとなりました。

しばらくして、事情により、2頭のヤギが学校から離れることになり、1年生の子どもたちが、お別れするヤギに手紙を書きました。「また会いに行くよ。キャベツクレープを作るよ。大好き。元気でね。風邪をひかないでね。」子どもたちの優しい気持ちが育っていると感じ取れる愛情たっぷりの手紙でした。

そして4月。2年生に進級した子どもたちが、新1年生にヤギの世話の仕方を教える姿が見られました。

「えさはこの中に入れてね。」

「（ブラシは）こうやって動かすといいよ。そつとやってね。上手だね。」

命あるものと共に過ごし、育んできた優しい心。命がつながるように、心もつながり、受け継がれていきます。そんな「命と心のバトンタッチ」を、本校の一員として見守っていききたいと思っています。



ヤギとふれ合う児童

本校は、全校児童24名の学校です。本年度は、すべての学年が複式学級です。「よく笑いよく遊びよく学ぶ」をスローガンに、少ない人数で元氣よく生活しています。

令和元年度より、少人数の中で、少しでもかかる対象を増やそうと動物飼育を始めました。低学年を中心に、進んでかわり、世話をしています。

この3年間でいくつかの出会いと別れがありました。動物たちの生と死を見つめる中で、西教諭が紹介している子どもたちの心の成長がありました。

「生きる力」を育むために、命のつながりを大切にした活動を今後も続けていきたいと思っています。

(校長 伊藤 賢修)





安城市立桜林小学校  
教諭 石川 美佳

## 友達と考えを聴き合い、 自分の考えを深めようとする子をめざして

### 一 はじめに

子どもたちに国語科に対する思いを聞くと、読むことが苦手、登場人物のことを聞かれても分からないという声を耳にする。しかし、放課に読書する姿もあり、読むことを楽しみたいという思いは感じられた。このような実態から、国語科における読み取りにも前向きに取り組み、自分の考えを深めようとする子どもを育てたいと考えた。

不安を抱く子どもたちが学びに向き合うためには、共に学ぶ存在が重要だと考える。友達を考えを手がかりにすることで気付くことが増え、より深い学びに辿り着く可能性が高まるからである。そこで、考えを聴き合うことを大切にし、「親しむ→聴き合う→読み深める」という手順で研究を進めた。

### 二 一年次の研究

小学一年 国語科 物語文  
「かいがら」の実践を通して



#### ◇親しむ

物語のはじめに載っている挿絵を拡大して提示した。子どもたちは本文を読む前だったが、気付いたことをつぶやき、文字を読むことが苦手な子ども、絵を見て想像することに意欲的に取り組んだ。挿絵から物語に出会ったことで、読むことへの関心が高まり、早くお話を読みたいという声が出てきた。

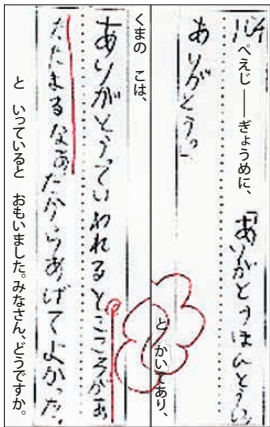
#### ◇聴き合う

互いに読み取ったことを目で見て分かるようにするために、登場人物の気持ちをハートボードで表した。多くの子が①を出す中、③を出して不安そう

な顔をしていた子が、似た色のハートを見るとほっとして、読み取ったことを発言した。聴き合いに慣れていない一年生でも、安心して考えを伝えられるようになった。また、②③④のように考えの幅が広がる選択肢を作ったことで、互いの考えをよく聴こうという雰囲気生まれた。

#### ◇読み深める

一人一人が読み取ったことをより具体的にみんなに伝えることができるように、主人公が心の中で言っていると思われる言葉（心の声）を読み取った。読み取りにつまずいた時には、ペアで動作化するように促した。その様子を互いに見合う場も設けた。すると、資料のように叙述から読み取ることができた。さらに、自分が読み取ったことをもとに課題について聴き合うことで、読み取ったことを互いに比べることができた。



【うさぎの子の心の声】

じること、読み取りを支えることができると感じた。

#### ◇読み深める

二羽のアネハヅルの気持ちの揺れ動きを捉えることで読み深められると考え、「心の距離を読み深めよう」を単元目標にした。そして、行間を広げたワークシートを作り、上部にクルルとカララの心の距離を心情曲線で示せるようにした。ここに書き込んだことをもとに、聴き合いをおこなった。

| 第四場面で使用したワークシートより抜粋                                                                                                           |                        |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------|
| 白い雪がちらほらとまい始めたときだ。クルルの目に、南の空からまいおりてくる一羽の鳥が見えた。カララだ。カララは何も言わずにクルルのとなりにおり立った。クルルは、もしカララが「さあ、いっしょに行こう」と言ったら、たとえ飛べたとしても首を行かないからな。 | わなかつた。でも、カララは何も言わなかった。 |

聴き合いでは、言葉の意味、働き、使い方等に着目し、本文全体を見渡せる問い返しをするように心がけた。これを続けたことで、前の場面と関連付けて読み取ることができるようになってきた。

### 三 二年次の研究

小学二年 国語科 物語文  
「お手紙」の実践を通して

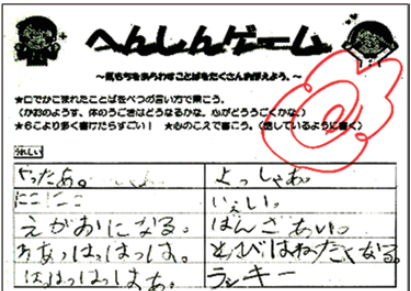


#### ◇親しむ

本文に使われている言葉を別の言葉で表す「へんしんゲーム」をおこなった。考える糸口が見つからない時には、具体的な場面を提示した。見つけた言葉を読み合うと、自分の見つけられなかったものを書き加えていった。すると、気持ちの強さを比較するようになり、表したい気持ちに合う、より適切な言葉を選ぶようになった。

#### ◇聴き合う

課題に対してどのようなことでつまづいているのかを聴き、子どもたち同士を考えを繋いだり、考えと本文を繋げたり、課題を加えて戻したりした。かえるくんが幸せな理由が分からずにいた子どもたちであったが、何度も本文を読み直し、友達を考えを受け止めて考え直した。その結果、かえるくんにとってがまくんは親友であるからこ



【へんしんゲームの用紙】

カララがクルルのそばにいたことについて考えた時、「隣にいとどんな気持ちで伝わるのだろう。」と問いかけると、「冬を前にして飛べなくなつたツルは、死ぬしかない」という文から「死ぬことよりもクルルを失うことの方が嫌」という気持ちが伝わりそうだと気付いた。また、「群れをいっしょに見つめていた」という文から「クルルの友達でいたい」という願いをこめているとも気付くことができた。その結果、一場面のクルルに背を向けたカララと比較し、群れのツルにどう思われてもクルルは友達だと思える強い気持ちが生まれていると読み深めた。また、描いた心情曲線から、クルルの心も変化し始めていることを読み取った。

### 五 おわりに

この研究を通して、子どもたちのつまづきに寄り添い、前向きに学習に向かうことができるための支援の必要性を改めて感じた。そこには温かい学級のつながりが必要で、力を合わせて考えを聴き合うことで、自分の考えを深めようという力が湧いてくることも実感した。物語文の読み取りを楽しむ始めた子どもたちが、この先さらに学びを深めていけるよう、今後も魅力的な読み深め方を模索していきたい。

その親友の幸せが自分の幸せのように感じられることに気付いた。

#### ◇読み深める

登場人物の話す言葉は変化しているにも関わらず、子どもたちが読み取った心の声がどれも似ていた。そこから、気持ちの変化を読み深めてほしいと考え、お面をみんなで手作りして役割読みをした。ペアを作って交互に役を演じながら考えたり、教師と子どもで役を分けて考えたりした。読み取りたい役になって読むことで、本文に書かれている様子をつかみやすくなり、文脈を意識した心の声を読み取れるようになった。読み深めたことを味わうために、各自で音読する場を設けると、わずかな言葉の違いも意識して読めるようになった。

### 四 三年次の研究

小学三年 国語科 物語文

「風切るつばさ」の実践を通して



#### ◇親しむ

コロナ禍で書いたものを近くで見合うことが制限される中、物語をあまり読まない子どもたちでも楽しいと感じる出会いを生むために、「デジタルリーフレット作り」をした。「SKYMENT Cloud」というアプリの「シンプルプレゼン」を活用した。読むことに抵抗

| ①物語と出会う   |                                                                            |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------|
| 風切るつばさ    | 気になったこと                                                                    |
| 気づいたこと    | えさをくれていたクルルをうらぎるなんて友達じゃないと思う。自分だったらしない。なんでか知りたい。                           |
| まとめた考えの変化 |                                                                            |
| ②1物語のクルル  |                                                                            |
| 風切るつばさ    | 今日考えたこと                                                                    |
| 考えたいこと    | うらぎったのかわからなくなってきた。でも、クルルが仲間を殺したと疑われた時に助けなかったカララは、事情があったから、ばくもクルルを助けられるか心配。 |



「ふえのひびき」を活用した授業

## 楽しんで学ぶ音楽

### 音楽の授業におけるICT機器の活用

豊田市立巴ヶ丘小学校 教諭 山田 綾夏

本校では、「進んで学び合い 心豊かで 心身ともにたくましい児童の育成」を目指して実践を重ねている。子どもたちが積極的に挑戦し、進んで学ぶ姿勢や自分や友達の考えをもとに、自分の考えを深める力を育んでいる。

音楽科では、子どもたちが自ら考え、互いの思いを伝え合いながら、音楽の良さに気づき楽しんで取り組む協働的な学びのある授業を目指し、実践を重ねている。

#### 高学年の実践例

小規模校の本校では、2学年合同で音楽の授業を行っている。5年の音楽科「音の重なりを感じ取るう」の学習では、楽器の音や歌声が重なり合う響きを感じ取りながら、互いの音や声を合わせて表現することや、どのように表現するかについて思いや意図をもち、それらの学習に主体的に取り組むことなどを目指している。

そこで、単元の中で「ふえのひびき」いろいろな曲に挑戦しようの中から、子どもたちにも吹いてみたい曲の希望を聞き、「見よ、勇者は帰る」の重奏を行うこととした。

#### 「ふえのひびき」QRコードの活用

令和4年度版では、ページ内の楽譜に加え、新しくQRコードが2種類掲載され、タブレットで

読み込むと、範奏やピアノ伴奏を聴くことができる。

はじめに一斉で模範演奏を聴かせ、練習に取り組んだが、子どもから「リズムが分からない」という声が聞かれた。

そこで、各自のタブ

レットを用いてQRコードを読み取り、範奏やピアノ伴奏に合わせて練習をする活動を行った。興味津々に範奏を聴く子どもたちの姿が見られたので、リズムが分からない部分や苦手な部分を中心に繰り返し聴くように指導した。

振り返りには、「お手本を聴いてやってみたら、昨日よりリズムを覚えて吹けるようになった」「伴奏があって吹きやすかった」などがあつた。また、各自のタブレットを使用することで、個々のタイミングで再生・停止をしながら繰り返し聴くことができるため、演奏が苦手な子も自分にあつたペースで練習をすることができた。

#### タブレットの録画機能を活用した課題見つけ

合奏の場面の子どもたちは自身の演奏のみに集中してしまいがちで、仲間の音を聴き合って演奏



QRコードを読み取り演奏を聞く子ども

することは難しい。そこで、グループで自分たちの演奏をタブレットで撮影し、その映像を視聴する活動を行った。自分たちの演奏を客観的に見て評価し、改善点を話し合い、自分たちで演奏の課題を見つけることができた。

振り返りの、「動画を撮ってみて、最後がずれていたからそこを合わせたい」と、高まった意欲は、単元の最後まで途切れることはなかった。

#### 主体的に取り組む、音楽を豊かに楽しむ授業

音楽の授業では特に、子どもたち自身が音楽を「楽しんで取り組む」ことを大切にしている。題材の選曲に子どもの意見を取り入れたり、ICT機器の効果的活用により子どもたちの興味を引き出したりするなど、子どもたち自身が「面白そう」「やってみたい」という気持ちで進んで取り組める授業づくりを意識している。

今年度版の新しい「ふえのひびき」や、ICT機器を使った授業を行うことで、子どもたちが最後まで主体的に学習に取り組むことができた。

今後も「ふえのひびき」やICT機器を効果的に活用し、子どもたちが楽しんで学べる音楽の授業づくりを心掛けていきたい。



自分たちの演奏を録画し、改善点を見つける子どもたち

## 令和4年度学校教育ボランティア助成グループ一覧

### 読書活動グループ助成対象団体

| 〈地区〉 | 〈団体の名称〉              | 〈代表者〉 | 〈主な活動場所〉      |
|------|----------------------|-------|---------------|
| 附 属  | 愛知教育大学附属岡崎小学校        | 大塚嘉奈子 | 愛知教育大学附属岡崎小学校 |
| 岡 崎  | おはなしたまてはこ            | 宮嶋ゆかり | 岡崎小学校         |
| 岡 崎  | あたごハッピースマイルズ         | 霜田美津子 | 岡崎小学校         |
| 岡 崎  | きらら絵本館               | 松浦みゆき | 愛宕小学校         |
| 岡 崎  | 河中読み聞かせボランティア        | 飯沼 典子 | 矢作東小学校        |
| 碧 南  | 読み聞かせボランティア          | 牧野 和代 | 河合中学校         |
| 刈 谷  | 小垣江小学校図書ボランティア       | 森 裕子  | 西端小学校         |
| 刈 谷  | ころもうらレンジャー           | 石田 芳加 | 小垣江小学校        |
| 豊 田  | ねぎぼうずの会              | 志賀 歌江 | 衣浦小学校         |
| 豊 田  | おはなしの森               | 吉野ちづえ | 根川小学校         |
| 豊 田  | 読み聞かせサークル「おはなし プルプル」 | 阿部 憲子 | 古瀬間小学校        |
| 豊 田  | 幸海小読み語りボランティア        | 近藤美那子 | 寿恵野小学校        |
| 豊 田  | ひよっこくらぶ              | 安藤佳代子 | 幸海小学校         |
| 豊 田  | カワセミ読み聞かせクラブ         | 加藤 智子 | 小原中部小学校       |
| 安 城  | 読み聞かせボランティア「お話の部屋」   | 山崎 瑞穂 | 追分小学校         |
| 安 城  | おはなし宅急便              | 大見 綾美 | 桜林小学校         |
| 安 城  | お話の会ボランティア           | 山本 淑子 | 新田小学校         |
| 西 尾  | 一色南部小学校図書ボランティア      | 河井みどり | 丈山小学校         |
| 西 尾  | 津平小学校図書ボランティア        | 水越 絵美 | 一色南部小学校       |
| 西 尾  | 横須賀小学校図書ボランティア       | 齊藤 僚子 | 津平小学校         |
| 知 立  | 知立市立八ッ田小学校図書ボランティア   | 池田 郁子 | 横須賀小学校        |
| 高 浜  | 高浜小学校図書ボランティア「みらくる」  | 安藤 愛  | 八ッ田小学校        |
| みよし  | 坂崎小学校読み聞かせボランティア     | 荻野真紀代 | 高浜小学校         |
| 幸 田  | i ボランティア             | 福岡有里子 | 三好中学校         |
| 豊 橋  | 図書館ボランティア「ぼけっとさん」    | 松波 良宏 | 坂崎小学校         |
| 豊 橋  | 図書・読み聞かせボランティア       | 横井 真紀 | 岩西小学校         |
| 豊 橋  | 読み聞かせボランティア「たんぽぽ」    | 金子 智美 | 清水小学校         |
| 豊 川  | 千両小学校読み聞かせの会         | 波田野真輝 | 小沢小学校         |
| 豊 川  | 代田小学校図書ボランティア        | 宇野 洋子 | 中野小学校         |
| 豊 川  |                      | 一木 恵美 | 千両小学校         |

| 〈地区〉 | 〈団体の名称〉                         | 〈代表者〉 | 〈主な活動場所〉       |
|------|---------------------------------|-------|----------------|
| 豊 川  | 一宮東部小学校                         | 足木 京子 | 一宮東部小学校        |
| 蒲 郡  | 「あじさい」(形原小学校読み聞かせグループ)          | 鈴木 安代 | 形原小学校          |
| 蒲 郡  | 金沢ヒューマン文庫を愛し守る会リーディングキャラバン隊     | 船坂 清伸 | 形原北小学校         |
| 新 城  | にじいろのたね                         | 阿部 和子 | 鳳来中部小学校        |
| 新 城  | ホルンの詩                           | 山本 文保 | 鳳来東小学校         |
| 田 原  | 六連小読み聞かせの会                      | 高崎三沙子 | 六連小学校          |
| 田 原  | お話手のひらの会                        | 鈴木美代子 | 中山小学校          |
| 北設楽  | 津具語りの会                          | 川邊 香苗 | 津具小学校          |
| 北設楽  | お話会                             | 久野 愛子 | 豊根小学校          |
| 附 属  | 愛知教育大学 学生ボランティア有志の会(人形劇・ダンス)    | 成瀬 麻美 | 愛知教育大学附属特別支援学校 |
| 岡 崎  | 常磐東ボランティア寿クラブ(環境整備)             | 長谷川憲隆 | 常磐東小学校         |
| 岡 崎  | おやじの会「新選組」(環境美化・バトロール)          | 今泉 隆志 | 城北中学校区         |
| 碧 南  | 児童の下校付き添い・見守り(下校時の見守り)          | 石橋 幸子 | 日進小学校区通学路      |
| 刈 谷  | 東刈谷小学校 親父の会(ベンキ塗り・行事支援等)        | 和 田 誠 | 東刈谷小学校         |
| 豊 田  | 豊田市立西保見小学校 花ボランティア(花壇や鉢植えの手入れ)  | 竹島 美宣 | 西保見小学校         |
| 豊 田  | うねべ・ライブラリー・サポーター(図書館の環境整備)      | 井上留美子 | 畝部小学校          |
| 安 城  | 図書環境ボランティア(新刊装備・環境整備)           | 杉浦 薫  | 安城南中学校         |
| 西 尾  | 荻原つ子見守り隊(登下校の見守り等)              | 西岡 賢一 | 荻原小学校区         |
| 知 立  | 知立東小学校 おやじの会(環境整備・行事支援)         | 土方 啓靖 | 知立東小学校         |
| 高 浜  | 安心おじさん・おばさん(下校付き添い)             | 高橋 好治 | 翼小学校区通学路       |
| みよし  | みどりっこサポーター(裁縫指導支援・プール清掃等)       | 白神由美子 | 緑丘小学校          |
| 幸 田  | 幸田防犯まちづくり倶楽部 防犯・バトロール・ステイパル開催等) | 鈴木 誠  | 幸田小学校区         |
| 豊 橋  | 高豊中学校 花ボランティア(環境美化等)            | 竹中寿美恵 | 高豊中学校          |
| 豊 橋  | ファーマーズ(ハンドボール指導補助)              | 稲吉 正和 | 前芝中学校          |
| 豊 川  | 金屋小学校 図書ボランティア(図書室整備)           | 玉腰 妙子 | 金屋小学校          |
| 蒲 郡  | 煙火昭校友会(文化芸能の披露)                 | 酒井 貞彦 | 形原中学校          |
| 新 城  | ニギハヤス イグリス ボランティアグループ英語の授業の補助   | 瀬川ゆり子 | 新城中学校          |
| 田 原  | 大久保見守り隊(登下校の見守り等)               | 富田のぶ子 | 田原南部小学校内通学路    |
| 北設楽  | 田峯盆踊り保存会(奉納歌舞伎の練習)              | 七原 明郎 | 田峯小学校内・校区      |

### 読書活動以外のグループ助成対象団体



〈小学校〉

| 発表年月日         | 研究領域                                             | 研 究 主 題                                                           | 研究期間  | 指定等 | 地 区 | 学校名         |
|---------------|--------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|-------|-----|-----|-------------|
| 4. 10. 27 (木) | 国語科<br>道徳科                                       | 対話を通して、主体的に学びを深める天王っ子<br>～あたたかな人間関係を土台として～                        | 2 ～ 4 | 市教委 | 豊 川 | 天王小学校       |
| 4. 10. 27 (木) | 国語科<br>算数科                                       | 響き合い 学ぶ喜びを実感する子の育成<br>～4つの手立てを中心に 国語科・算数科の学習を通して～                 | 2 ～ 4 | 市教委 | 豊 川 | 豊小学校        |
| 4. 11. 2 (木)  | 低学年 生活科<br>中・高学年 社会科・理科<br>特支 知的…生活単元<br>情緒…自立活動 | 自ら学び続ける子<br>～東刈谷流「単元のデザイン＆思考のスタイリング」<br>の創造～                      | 2 ～ 4 | 市教委 | 刈 谷 | 東刈谷<br>小学校  |
| 4. 11. 9 (木)  | キャリア教育                                           | 未来を自分らしく生き抜く子供<br>～30年後を見据えた新しいキャリア教育の創造～                         | 2 ～ 4 | 市教委 | 岡 崎 | 梅園小学校       |
| 4. 11. 10 (木) | 全教科                                              | 未来をいきいきと切り拓く子どもの育成<br>～いきもの学習でのESD活動を中心としたカリキュラム・マネジメント～          | 2 ～ 4 | 市教委 | 知 立 | 知立南<br>小学校  |
| 4. 11. 11 (金) | 家庭科                                              | 愛知県家庭科教育研究会安城大会<br>豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育<br>～コロナ禍における生活からの授業づくり～ | 3 ～ 4 | 県   | 安 城 | 安城東部<br>小学校 |

〈中学校〉

| 発表年月日         | 研究領域                       | 研 究 主 題                                                                                                                            | 研究期間  | 指定等        | 地 区 | 学校名        |
|---------------|----------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|------------|-----|------------|
| 4. 10. 5 (木)  | 全教科                        | 積極的にコミュニケーション活動を行い、自己の考えを深める生徒の育成<br>～なっぴータイムを土台とした学級づくり、話し合いを<br>大切にした学習活動を通して～                                                   | 2 ～ 4 | 市教委        | 碧 南 | 南中学校       |
| 4. 10. 14 (金) | 全教科                        | 『創造性を育む』<br>～習得したことを生かす3ステップ学習を通して～                                                                                                | 2 ～ 4 | 市教委<br>県委嘱 | 刈 谷 | 雁が音<br>中学校 |
| 4. 10. 20 (木) | 全教科                        | 未来につながるつくだの学び<br>～仲間・地域とつながる学びを通して～                                                                                                | 2 ～ 4 | 市教委        | 新 城 | 作手中学校      |
| 4. 10. 20 (木) | 全教科                        | 何事にも本気で取り組み、関わり合いを通して、新たな考えを<br>導き、新たな行動、新たな自分自身を創出する生徒の育成                                                                         | 2 ～ 4 | 市教委        | 新 城 | 八名中学校      |
| 4. 10. 21 (金) | 技術・家庭科                     | 東海・北陸地区中学校技術・家庭科研究大会愛知大会<br>兼 愛知県中学校技術・家庭科研究大会豊橋大会<br>よりよい生活の実現と持続可能な社会の構築に向け、<br>自ら工夫し創造する生徒の育成<br>～問い直しから新しい視点や発想を取り入れる学習活動を通して～ | 2 ～ 6 | 東海・<br>北陸県 | 豊 橋 | 南稜中学校      |
| 4. 10. 26 (木) | 全教科                        | 自ら未来を切り拓く生徒の育成<br>～ファシリテーションを核としたチーム学習を通して～                                                                                        | 2 ～ 4 | 市教委        | 岡 崎 | 東海中学校      |
| 4. 10. 26 (木) | 全教科                        | 学びに没頭する生徒の育成<br>～生徒の思いを取り入れた単元構想と「立ち止まる」<br>がある授業づくりを通して～                                                                          | 3 ～ 4 | 市教委        | 安 城 | 桜井中学校      |
| 4. 10. 27 (木) | 全教科                        | 学び続ける生徒の育成<br>～共につくる深い学びのある授業を通して～                                                                                                 | 2 ～ 4 | 市教委        | 豊 川 | 代田中学校      |
| 4. 10. 27 (木) | 全教科                        | 学び続ける南中生                                                                                                                           | 元～4   | 市教委        | 高 浜 | 南中学校       |
| 4. 10. 28 (金) | 教科指導                       | 『成長や課題を自覚し、学びを探究する生徒の育成<br>～全員が主体的に学びへ向かう授業づくり～』                                                                                   | 3 ～ 4 | 市教委        | みよし | 三好丘<br>中学校 |
| 4. 11. 2 (木)  | 全教科<br>(ICT機器活用)<br>特別支援教育 | 深い学びを創る授業<br>～自ら動き出し、追究し続け、ともに高め合う生徒～                                                                                              | 元～4   | 市教委        | 蒲 郡 | 中部中学校      |
| 4. 11. 2 (木)  | 学習指導                       | 自らの意思で学び続け、未来の創造に向けて動き出す生徒の育成<br>～自発的な問いを生むことから始まる、「主体的・対<br>話的で深い学び」の授業を通して～                                                      | 2 ～ 4 | 市教委        | 豊 橋 | 二川中学校      |
| 4. 11. 2 (木)  | 全教科                        | わかる学習指導 第12次研究4年次<br>自ら学び続ける生徒の育成<br>―「読む」・「書く」の充実を図り、「わかる」の実感<br>を強める学習指導を中心に―                                                    | 毎年    | 自主         | 岡 崎 | 竜海中学校      |

三河の教育研究

令和4年度 研究発表校一覧

令和4年5月1日現在

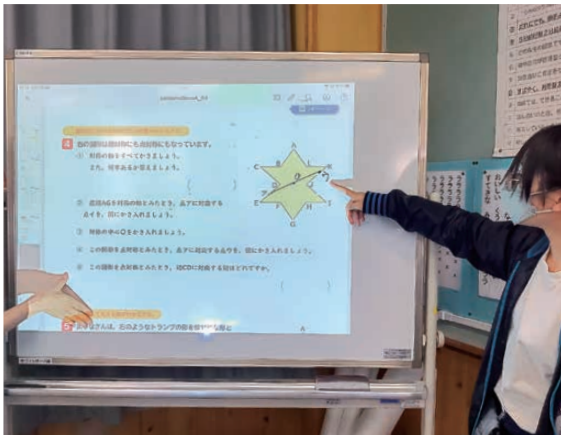
〈附属学校〉

| 発表年月日                          | 研究領域 | 研 究 主 題 等                                    | 研究期間  | 学校名      |
|--------------------------------|------|----------------------------------------------|-------|----------|
| 4. 9. 27 (火)                   | 教 科  | 第51回生活教育研究協議会<br>「躍動」(2年次)                   | 3 ～ 7 | 附属岡崎中学校  |
| 4. 11. 11 (金)                  | 教 科  | 第53回特別支援教育研究協議会<br>「学びを生活に生かす子どもの姿を求めて」(3年次) | 2 ～ 6 | 附属特別支援学校 |
| 4. 11. 17 (木)<br>4. 11. 18 (金) | 教 科  | 第73回生活教育研究協議会<br>「豊かに生きる」(5年次)               | 30～ 4 | 附属岡崎小学校  |

〈小学校〉

| 発表年月日         | 研究領域                      | 研 究 主 題                                                                         | 研究期間  | 指定等 | 地 区 | 学校名         |
|---------------|---------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|-------|-----|-----|-------------|
| 4. 10. 12 (木) | 学習指導                      | 仲間と関わりながら学びの道を歩む子の育成<br>～「あったかし小学校」を基盤とした、協働的な学<br>習の展開～                        | 2 ～ 4 | 市教委 | 豊 橋 | 高師小学校       |
| 4. 10. 13 (木) | 全教科                       | 仲間と共に 未来を切り拓く 作野っ子の育成<br>～主体的に聴き合い、思考を深める授業づくり～                                 | 3 ～ 4 | 市教委 | 安 城 | 作野小学校       |
| 4. 10. 19 (木) | 健康教育                      | 心も元気！体も元気！笑顔あふれる汐田っ子の育成<br>～個の学びを生かし、仲間とともに健やかな心と<br>体づくりを学ぶ教育活動を通して～           | 2 ～ 4 | 市教委 | 豊 橋 | 汐田小学校       |
| 4. 10. 19 (木) | 全教科                       | 学ぶ楽しさを実感し、学び続ける子どもの育成<br>～一人も取り残さない「個別最適な学び」を実現す<br>るチーム学習を核にして～                | 2 ～ 4 | 市教委 | 岡 崎 | 大門小学校       |
| 4. 10. 20 (木) | 理科・生活科<br>特別支援            | 学ぶ楽しさを実感する津平っ子の育成<br>～たけのこスタイルを核とした授業づくり～                                       | 元～4   | 市教委 | 西 尾 | 津平小学校       |
| 4. 10. 20 (木) | 社会・生活<br>総合的な学習           | 自ら学び、ふるさと中畑に誇りと愛着をもつ子の育成<br>～地域と手を携えて創り上げる「きずな単元」の実践を通して～                       | 元～4   | 市教委 | 西 尾 | 中畑小学校       |
| 4. 10. 20 (木) | 国語科                       | 自ら学ぶ子の育成<br>問題解決を通して3つの資質能力を高める国語科の学習                                           | 元～4   | 市教委 | 西 尾 | 福地南部<br>小学校 |
| 4. 10. 21 (金) | 国語科・生活科<br>総合的な学習の時間      | 学びを深める桜林っ子の育成<br>～仲間とつながる授業づくり～                                                 | 3 ～ 4 | 市教委 | 安 城 | 桜林小学校       |
| 4. 10. 26 (木) | 全教科<br>特別支援教育             | 学びを還す子を育む<br>～多様な教科における地域を活用した学びを通して～                                           | 元～4   | 市教委 | 蒲 郡 | 蒲郡北部<br>小学校 |
| 4. 10. 26 (木) | 生活科・社会科<br>総合的な学習<br>保健教育 | 『もっともっと！』と学び続ける子<br>～身近な「人・もの・こと」とのかかわりを大切に<br>した授業づくり～                         | 元～4   | 市教委 | 蒲 郡 | 三谷東<br>小学校  |
| 4. 10. 26 (木) | 全教科                       | やってみたい！！～最大の支援は単元構想～                                                            | 2 ～ 4 | 西 三 | 幸 田 | 深溝小学校       |
| 4. 10. 27 (木) | 学習指導                      | ともに成し遂げた経験をもち、考え、伝え合い、行<br>動する子どもの育成<br>～子どもが学習課題を自分事としてとらえ、学び合<br>い・深め合う授業づくり～ | 3 ～ 4 | 事務協 | 北 設 | 東栄小学校       |
| 4. 10. 27 (木) | 学習指導                      | 仲間とともに学び、考えを深める児童の育成<br>～確かな読みの力を育む授業づくり～                                       | 2 ～ 4 | 市教委 | 田 原 | 高松小学校       |
| 4. 10. 27 (木) | 生活・総合                     | 自ら未来を切り拓く子<br>～SDGsを意識した取り組みを通して～                                               | 3 ～ 4 | 市教委 | 田 原 | 童浦小学校       |
| 4. 10. 27 (木) | 全教科                       | 新しい価値を創造する子の育成<br>～みくらし「たくましく ゆたかに みんなで」の実現～                                    | 2 ～ 4 | 市教委 | 豊 川 | 三蔵子<br>小学校  |





教師用PDF版を使って、説明する児童

◇ 文化振興会では、過日ご案内しましたように、本年度より、メールマガジンの配信を始めた。第1号を6月1日に発行することができました。ぜひ、学校内でご覧いただき情報を共有することで、諸事業を円滑に進めていきたいと考えております。これからも時々の業務内容や情報を載せ、月の初めに発行していきます。

◇ また、4月より13刊行物で教師用PDF版の提供をはじめました。6月上旬、教師用PDF版を使った授業風景が、学校から「大画面で写せるのは、大変ありがたい」という授業者の言葉とともに届きました。授業改善の手立てにしていたければ幸いです。

◇ 今後、メールマガジンやPDF版の提供を通して、各郡市との関わりをさらに強めていきたいと思えます。メールマガジンやPDF版へのご要望などもありましたらICT部までお願いします。



## 令和4年度 団体研究助成

6月17日(金)に審査委員会を開催し、次の5団体に交付が決定しました。

- ・三河小中学校長会
- ・三河教育研究会
- ・三河教頭会
- ・愛知県へき地教育研究協議会
- ・生活・特別支援教育研究協議会



## 使用報告・刊行物注文締切

◇使用報告／夏休み日誌  
7月5日(火)～7日(木)  
算数の友(下)  
9月6日(火)～8日(木)

□注文締切／冬休み日誌・かきぞめ手本  
9月13日(火)～15日(木)



## 会議の予定

- 第2回文振郡市正副代表者会 10月7日(金)
- 第2回文振郡市事務担当者会 10月18日(火)
- 刊行物郡市説明会 10月下旬より開始します。

みかわ彩発見

絵画コンクール

あなたのくちで・まひり・なまを  
描いてみませんか？

春・夏の部  
最優秀作品

秋・冬の部  
最優秀作品

**応募期間**

春・夏の部  
令和4年  
**8月25日(木) ▶ 9月8日(木)**

秋・冬の部  
令和4年 令和5年  
**12月19日(月) ▶ 1月11日(水)**

※土・日・祝日を除く

詳しくは  
こちらから

## 令和4年度 業務組織

|             |       |      |       |       |
|-------------|-------|------|-------|-------|
| 顧問          | 岩月 慎白 | 総務部  | 岡田 守  |       |
| 理事長         | 保科 克之 | 編集部  | 稲垣 良治 | 天野 明典 |
| 副理事長        | 松平 貴圭 | ICT部 | 水鳥 勝久 | 名倉 嘉章 |
| 常務理事        | 酒井 敬  | 業務部  | 柵木 智幸 | 本多麻紀子 |
|             | 白井 博司 |      | 深津 理絵 |       |
| 事務長(兼総務部長)  | 水藤 彰啓 | 経理部  | 山本 満夫 | 浅井 英雄 |
|             |       |      | 牧 富代  |       |
| 事務次長(兼業務部長) | 谷中 智典 | 事務員  | 鈴木 千明 |       |

文振の最新情報は、ホームページをご覧ください。各種応募要項、申請書の様式等もアップしています。

